

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区高輪 1-5-38
園名	ミアヘルサ保育園ゆらりん高輪

## 1 活動のテーマ

<テーマ>

感情

<テーマの設定理由>

5歳児が入園してきた際、コロナウイルス感染症の発症・流行によりマスクの着用が必要となり、表情や感情を汲み取ることが難しく、他児との距離も制限され、幼少期に築かれるべきはずであった他者との関わり、コミュニケーションの不足に繋がっているのではないかと感じた。この活動を通して、自分の感情と向き合い、感情を整理する方法を見つける手がかりになるのではないかと感じた。特に喜怒哀楽に着目し、自分の感情の表現の仕方を様々な体験を通じて身に付けていけたらと思う。活動を重ねることで幼児クラス、特に5歳児の子どもたちがポジティブで前向きな思考や発言の探索につながるのではないかと考える。

## 2 活動スケジュール

7月10日 感情とは何かについて知る。  
7月11日 感情とは何かについて知る。  
8月6日 「喜び」について知る。  
8月8日 「喜び」について知る。  
9月12日 「怒り」について知る。  
10月3日 「哀しみ」について知る。  
11月28日 色で自分の感情を表現してみよう。  
12月4日 自分自身の感情を表現したTシャツ作りをする。  
12月24日 制作したTシャツを着て自己表現を楽しむ。  
2月14日 せいかつ発表会で保護者に披露する。

## 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・DVD (インサイドヘッド)・プロジェクター
- ・感情についてまとめた用紙・感想を書く紙
- ・プロジェクターが見やすいようにテーブル、椅子を設置する。

## 4 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・感情について（感情の種類、特徴、成長段階について）
- ・映画鑑賞
- ・映画を観た感想を話し合う

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

すくわくプログラムを開始する前から導入として映画に出てくるキャラクターの紹介をクラス内に貼り出すと、声を出して読み進めていて興味津々だった。そこから自分や友だちの感情にも興味を持ち、「今イカリの気持ちになっているよ。」「カナシミがいるね。」と保育者や友だち同士で感情について話す機会が増えた。

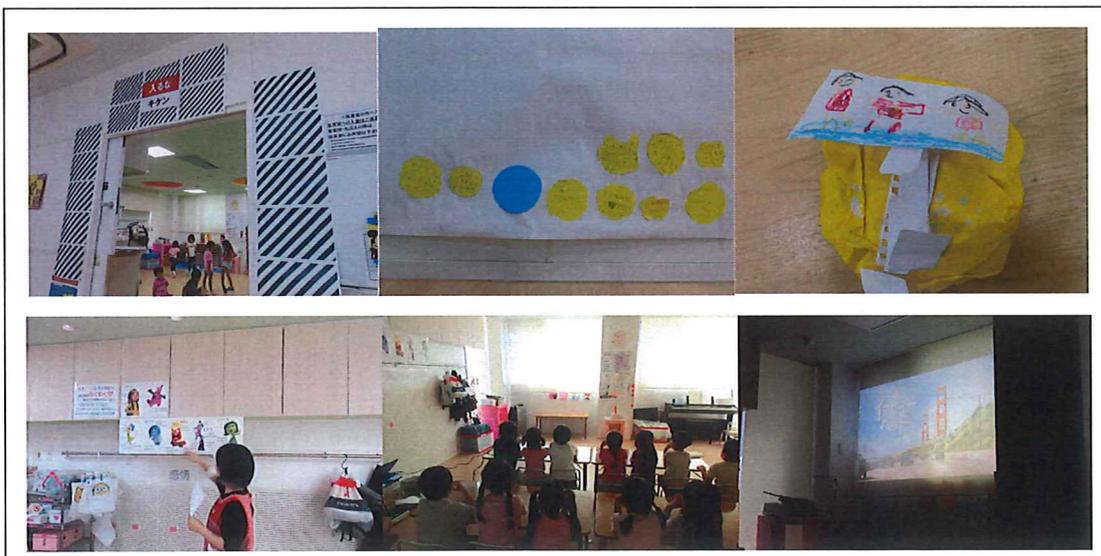
子どもたちに自分の心の中はどんな感情が多いか質問すると、ネガティブな感情が多いことが分かった。また、どんな感情になりたいかを聞くと「喜び」と全員で答えていて、ポジティブになりたい気持ちがあることが分かった。

感情が育つ発達段階の話をする则自分の感情の発達を客観視している姿も見られた。

すくわく実践後「思い出玉を作りたい。」という話が出てきて、保育者が画用紙を用意して自分の気持ちを書いたり、立体にして作ってみたりして思い出玉を作っていた。

映画で出てくる「入るな危険」のドアを再現してほしいと子どもたち自身が保育者に頼み、クラスのドアで様子を再現していた。

## 5 振り返り



<振り返りによって得た先生の気づき>

自分の感情に興味を持ち、「今〇〇の気持ちだね。」とキャラクターの名前を出して感情を客観的に見ている姿があった。

感情の成長段階の話をしてと「ちりんのすず」という絵本を読むと、絵本に出てきて赤ちゃんに対して「赤ちゃんだからまだ分からない感情があるんだね。」と考えながら話を聞いていた。

長時間映画の鑑賞をしたので、切り替えが難しかった。もし話し合いの時間があれば、区切ってから時間を設ける方が良いと感じた。

実際に想像していたよりも子どもたちの感情に対する反応が良く、興味を持って参加していたので、映画の続きで「インサイドヘッド2」を観て、更に感情が成長していく様子を学んでいる様子であった。

感情の成長段階の話をした際、自分の感情は成長しているのかを考え、「僕はまだお勉強中なんだ。」と客観視して話している姿があった。

また、担任の手助けのお陰で自由時間も思い出玉を作ったり、映画の雰囲気を楽しんでいる様子が見られた。

また、様々な感情の名前が書かれた紙を保育室に貼っておくと、知らない感情の名前に興味を持ち、保育者に「〇〇ってどういう意味？」と質問する様子が見られた。

子どもたち自ら「こうしたい」と発信できるように言葉掛けや環境設定をしていきたい。